

道徳の時間の導入で活用する

本場面におけるポイント

- 書き込んである内容を生かす
あらかじめ書き込んである内容を発表したり紹介したりして、話し合うことへの意欲を高める。
- その場で書き込んで話し合う
関係のあるページの記入欄の問い掛けに対して自分の思いを書き込み、主題への関心を高める。
- 絵や写真、言葉から問題意識を高める
主題に関わる絵や写真、言葉などを全員で見たり、読んだりして、問題意識を高める。



●みんなが書き込んだことを集計し紹介する導入（第2学年）

- 1 主 題 名 じぶんの力でがんばる〔内容項目1-（2）〕
- 2 中心的な資料 「マラソンたいかい」（文部省資料・平成7年）
- 3 ね ら い 自分でやろうと決めたことは粘り強くやり抜こうとする気持ちを育てる。
- 4 「心のノート」を生かす工夫

◇活用するページ: 1・2年用P.8～9「あなたのことをおしえてね」

◇導入での生かし方: このページは、子どもが自分のプロフィールについて自由に記録する「フェイスシート」である。本時では、その中の「できるようになりたいこと」に書かれた内容を集計し、その結果を導入に生かす。子どもは、学級全体の傾向に関心をもち、話し合いへの意欲を高めることが期待される。

5 展開の概要

学習活動の流れ	
1 「心のノート」の内容を整理した「2年〇組できるようになりたいことベスト5」を聞いて、感じたことを発表する。	
2 資料「マラソンたいかい」の絵話を視聴して、主人公あやの気持ちを中心に話し合う。 ○息が苦しくなって走るのをやめてしまったあやの思い ○ゆみと走り方についていろいろ話をしているときのあやの気持ち ○ゴールインしたときのあやの気持ち	
3 今までにやり遂げたことやがんばり切れなかったことなどを、あやに手紙で伝えよう。	
4 教師の願いを聞く。	

6 「心のノート」活用の実際

最初に各自が「心のノート」を見る時間をつくり、その後、「2年〇組できるようになりたいことベスト5」を伝えた。ベスト5の実際は次のとおりであった。

- ①さか上がり ②早起き ③習い事
④手伝いを続けること ⑤毎日勉強

その後、感じたことを発表し、全体での話し合いを方向付けた。

また、終末では、P.9の「しょうらいのゆめ」の欄に書き込んである内容について触れ、子どもがこれからに向かって前向きな気持ちをもてるような話をしてまとめた。



子どもがその気になって話し合いたくなるきっかけとして

●自分自身を見つめ直し、ねらいとする価値につなげていく導入（第3学年）

- 1 主 題 名 自分らしさ〔内容項目1-（5）〕
- 2 中心的な資料 「うれしく思えた日から」（文部科学省資料・平成23年）
- 3 ね ら い 自分の特徴に気付き、よいところを伸ばそうとする態度を育てる。
- 4 「心のノート」を生かす工夫

◇活用するページ: 3・4年用P.28～29「自分のよいところはどこだろう?」

◇導入での生かし方: このページは、自分のよいところや気になるところを振り返り、「自分自身」を見つめ直すページである。よいところだけにしぼると、書くことができない子どももいるため、「自分の直したいところ」や「今は苦手でも、将来〇〇になりたい」など、自分自身を幅広く捉えて考えることができるようにしていく。その際、子どもが記入しやすくなるように、このページを拡大したものを黒板に掲示し、はじめに担任が書き方を示す。

5 展開の概要

3・4年生用P. 28～29「自分ってどんな子かな?」を配布して、自分自身について振り返ってみるように話をした。

はじめは、自分のよいところについて書けない子どももいたが、担任が書き方を示すことで、子どもたちも「自分のよさ」や「気になるところ」について自由に書き始めることができた。また、子どもたちの中には、ノートに書かれている挿絵を参考にして、自分自身を振り返り、ノートに書いている子どももいた。

資料を読んだ後の展開前半、資料の人物について話し合う場面では、導入時に「心のノート」に書いた自分の記述内容と資料の主人公を比較しながら話し合う子どもの姿が見られた。



子ども自身が考えた自分のよいところや気になるところが記入されていた。

●絵や言葉を見ながら問題意識を高める導入（第5学年）

- 1 主 題 名 感謝する心〔内容項目2-（5）〕
- 2 中心的な資料 「あと30分おくれたら」（文部省資料・昭和56年）
- 3 ね ら い 私たちの生活が人々の協力や助け合いで成り立っていることを理解し、感謝する心情を育てる。

4 「心のノート」を生かす工夫

◇活用するページ: 5・6年用P.56～57「「ありがとう」って言えますか?」

◇導入での生かし方: 「はい」と「いいえ」の2つのボタンのどちらを押すか迷う場面を設定して、話し合いたい問題についてより明確につかむことができるようにする。

5 「心のノート」活用の実際

まず、次のような投げ掛けから入った。

「最近特にお世話になった人を思い浮かべてみよう。」

約30秒後、「では、56～57ページのボタンを見つめてみよう。いつもの自分はどうかな。『ありがとう』って言えますか。」と問い掛け、ボタンをみんなで押す時間をつくった。



自分は「ありがとう」って言えるだろうか

道徳の時間の導入で活用する

本場面におけるポイント

- 道徳的価値への気づきを促す
「心のノート」の絵や写真を見たり、言葉を読んだりすることによって、道徳的価値に気付かせることができる。
- 生活場面での問題意識を高める
問い掛けに対する自分の思いを書き込んだり、友達の意見等を聞いたりすることによって、自分の生活場面での問題意識を高めることができる。
- 資料への関心・理解を深める
中心的な資料の人物や出来事等を十分理解するために、導入で資料に関係するページを読んだり、教師の補足説明を聞いたりすることも考えられる。



● 絵からイメージして、自分の経験を発表する事例（第2学年）

- 主 題 名 いろいろな立場や考え〔内容項目2-(5)〕
- 中心的な資料 「言葉の向こうに」(文部科学省資料・平成24年)
- ね ら い それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解して寛容の心をもとうとする判断力を育てる。
- 「心のノート」を生かす工夫
中学校用P.60～61の絵を見てイメージし、自分の経験を発表することにより、人にはそれぞれの見方があるとわかっていても、自分の見方で物事を考えてしまいがちな自分に気付くことができるようにする。
- 展開の概要と「心のノート」活用の実際
(1) 「心のノート」の絵が何に見えるか考え、吹き出しに書く。



この絵は何に見えるですか？



アヒルかな？



うさぎにも見えるわ

- (2) 見えたものを発表し、人それぞれに見方が異なることに改めて気付く。



友達の相談ごとをつまらないことと思ったことがある。

少し不まじめな人だと思っていたが、話してみると部活動をいっしょけんめいがんばっていることがわかった。

- (3) 「心のノート」の「他の立場や考えを理解していない自分に気付いた経験」を発表し、「言葉の向こうに」を読む。(以下略)



動機付けをし問題意識を高めるために

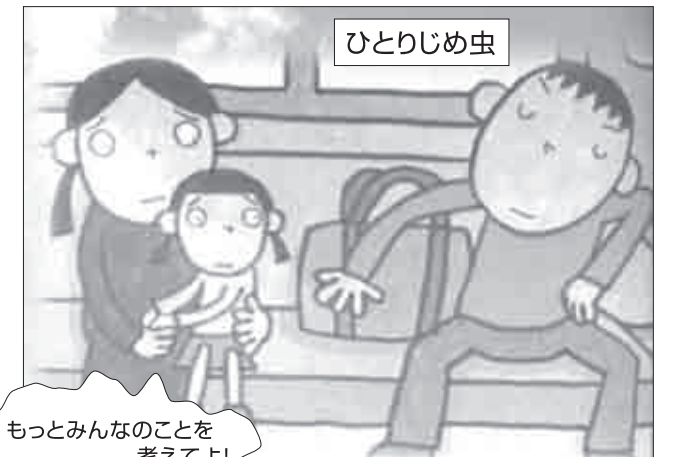
● 動作化などを取り入れ、生活場面を振り返る事例（第1学年）

- 主 題 名 自分だけがよければ…〔内容項目 4-(2)〕
- 中心的な資料 「はばたけ青い鳥」(文部省資料・平成6年)
- ね ら い 利己心に打ち勝って、よりよい社会秩序をつくろうとする心情を育てる。
- 「心のノート」を生かす工夫
「心のノート」の場面を動作化などで表現し、自分の生活場面での姿を思い出すことにより、誰もがもっている人間的な心の弱さを考えることができるようにする。
- 展開の概要と「心のノート」活用の実際
(1) 中学校用P.96～97の絵を見て、身近にいる「自己虫」はどれか探し、その場面を動作化などにより表現してみる。



ポイ捨て虫

- (2) それぞれの「自己虫」に名前を付け、その行為をどう思うか発表する。



もっとみんなのことを考えてよ!

- (3) 自分の心に、このような「自己虫」がないか自分の生活場面での姿を思い出す。そして、「自分だけがよければいい」という考えに問題があることに気付く、読み物資料「はばたけ青い鳥」を読む。(以下略)

